



奥飛騨温泉郷地域の アウターブランディング事業報告

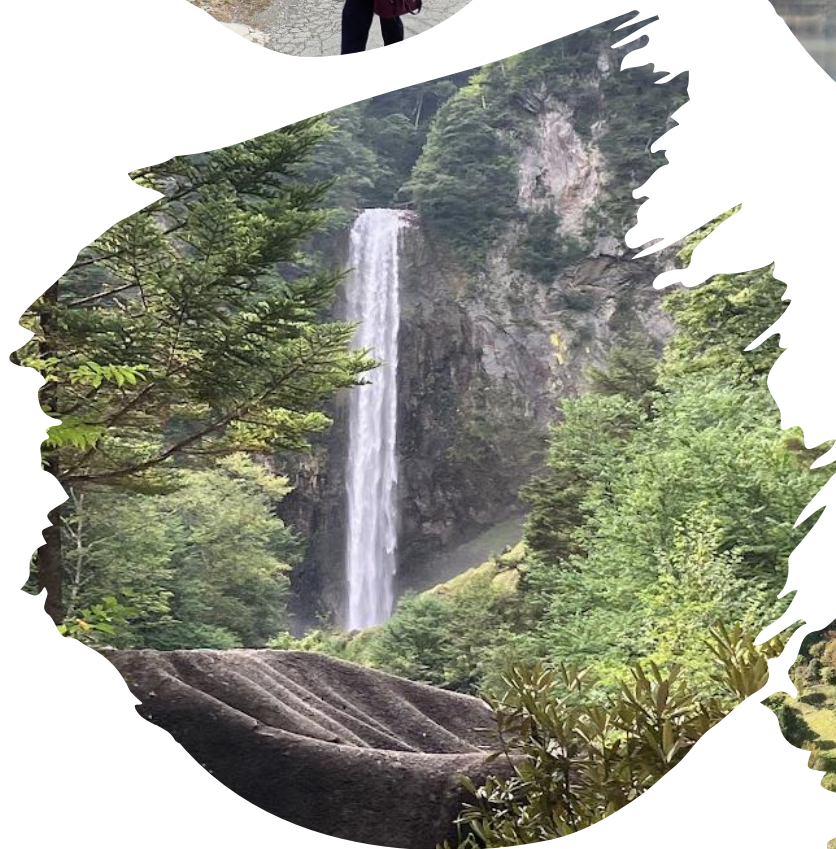
映像ツールの制作と 3大学合同合宿の可能性

発表者：中澤 朋代

飛騨高山大学連携センター 客員研究員

奥飛騨温泉郷・ 丹生川

- 豊かな温泉資源を有する岐阜県内有数の保養地
- 中部山岳国立公園であり、多くの自然観光資源を有しているエリアで、観光産業が盛ん
乗鞍岳、五色ヶ原、
平湯、新穂高、福地、
栃尾など



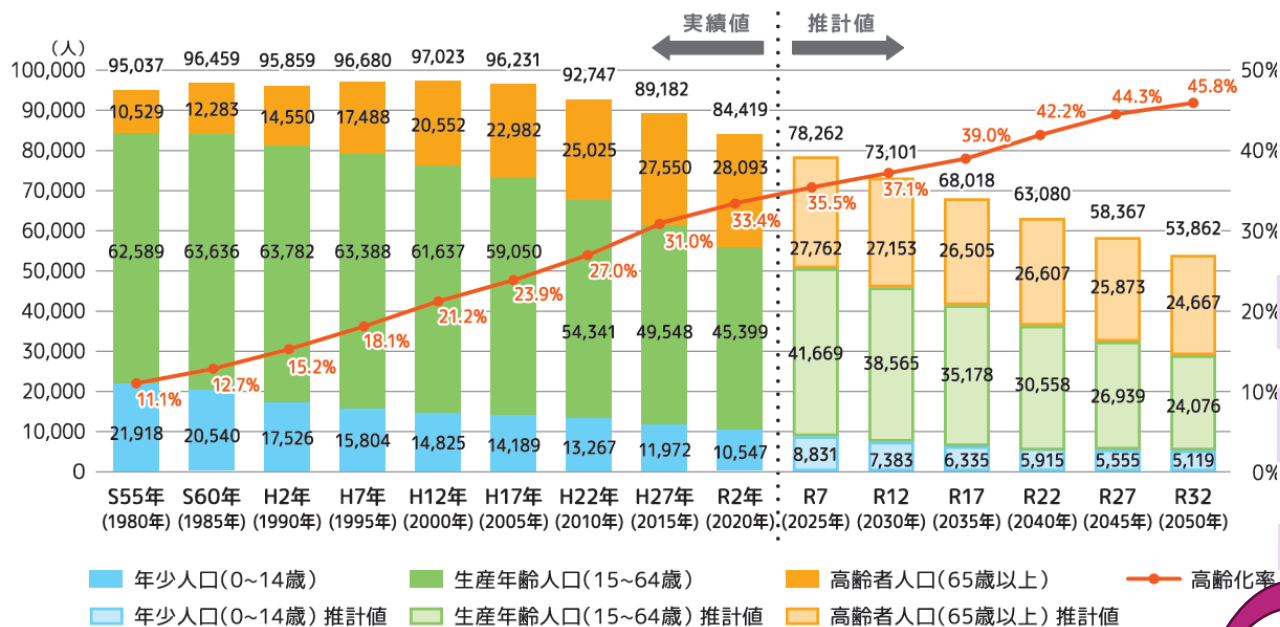
岐阜県と高



- 旧上宝村（里地：上宝支所～山岳観光地：奥飛騨温泉郷）
高山市の中で、最も低地～高地に位置
- 主産業は農業と観光
- 高山市は市町村のなかでは、日本一の森林率！（92.1%）
- 奥飛騨温泉郷は保養地として豊富な湯量をもつ温泉地
昔の湯治場から、幅広い選択肢のある保養地への転換が課題
- 中部山岳国立公園の核心部であり、自然の美しさと厳しさが共存
- 人口減少、教育、福祉の課題は他地域と同様

高山市の人口（全市・地域）

総人口・年齢3区分別人口・高齢化率の推移と推計



地域別の人口の推移と将来推計

(人)

地域・地区	実績値		R7 (2025年)	推計値					人口増減率 (R2年→R32年)	高齢化率 (R32年)
	H27 (2015年)	R2 (2020年)		R12 (2030年)	R17 (2035年)	R22 (2040年)	R27 (2045年)	R32 (2050年)		
高山地域	東	1,838	1,604	1,449	1,298	1,153	1,025	907	▲ 49.7%	53.5%
	西	4,497	4,179	3,765	3,392	3,045	2,715	2,425	▲ 47.8%	51.9%
	南	7,684	7,111	6,612	6,197	5,770	5,336	4,926	▲ 36.1%	45.6%
	北	11,144	11,249	10,657	10,118	9,547	8,992	8,464	▲ 29.4%	44.0%
	山王	9,326	8,907	8,363	7,881	7,391	6,906	6,443	▲ 32.8%	45.1%
	江名子	4,087	3,991	3,739	3,534	3,338	3,157	2,984	▲ 29.9%	44.1%
	新宮	7,244	6,961	6,463	6,149	5,827	5,510	5,182	▲ 30.4%	43.1%
	三枝	2,864	2,852	2,661	2,513	2,351	2,186	2,038	▲ 33.7%	43.5%
	大八	7,180	6,809	6,368	6,025	5,676	5,304	4,919	▲ 33.1%	44.1%
	岩滝	350	329	315	293	268	246	219	▲ 39.8%	47.5%
	花里	6,104	5,647	5,241	4,910	4,568	4,230	3,919	▲ 35.7%	44.6%
	小計	62,318	59,639	55,633	52,310	48,934	45,607	42,426	▲ 34.0%	44.9%
丹生川地域	丹生川地域	4,251	3,983	3,674	3,419	3,169	2,925	2,695	▲ 38.2%	47.2%
	清見地域	2,363	2,166	1,975	1,817	1,672	1,537	1,388	▲ 42.2%	50.0%
	荘川地域	1,240	1,010	910	821	738	657	588	▲ 48.4%	51.6%
	一之宮地域	2,484	2,355	2,183	2,018	1,862	1,713	1,576	▲ 38.6%	48.0%
	久々野地域	3,539	3,184	2,888	2,626	2,400	2,200	2,016	▲ 42.3%	46.5%
	朝日地域	1,656	1,438	1,278	1,146	1,035	929	825	▲ 49.0%	54.0%
	高根地域	334	278	251	218	181	146	119	▲ 66.5%	61.3%
	国府地域	7,743	7,537	6,890	6,363	5,868	5,399	4,964	▲ 39.7%	47.5%
上宝・奥飛騨温泉郷地域	上宝・奥飛騨温泉郷地域	3,254	2,829	2,580	2,363	2,159	1,967	1,770	▲ 43.6%	47.4%
	計	89,182	84,419	78,262	73,101	68,018	63,080	58,367	▲ 36.2%	45.8%

観光産業に着目

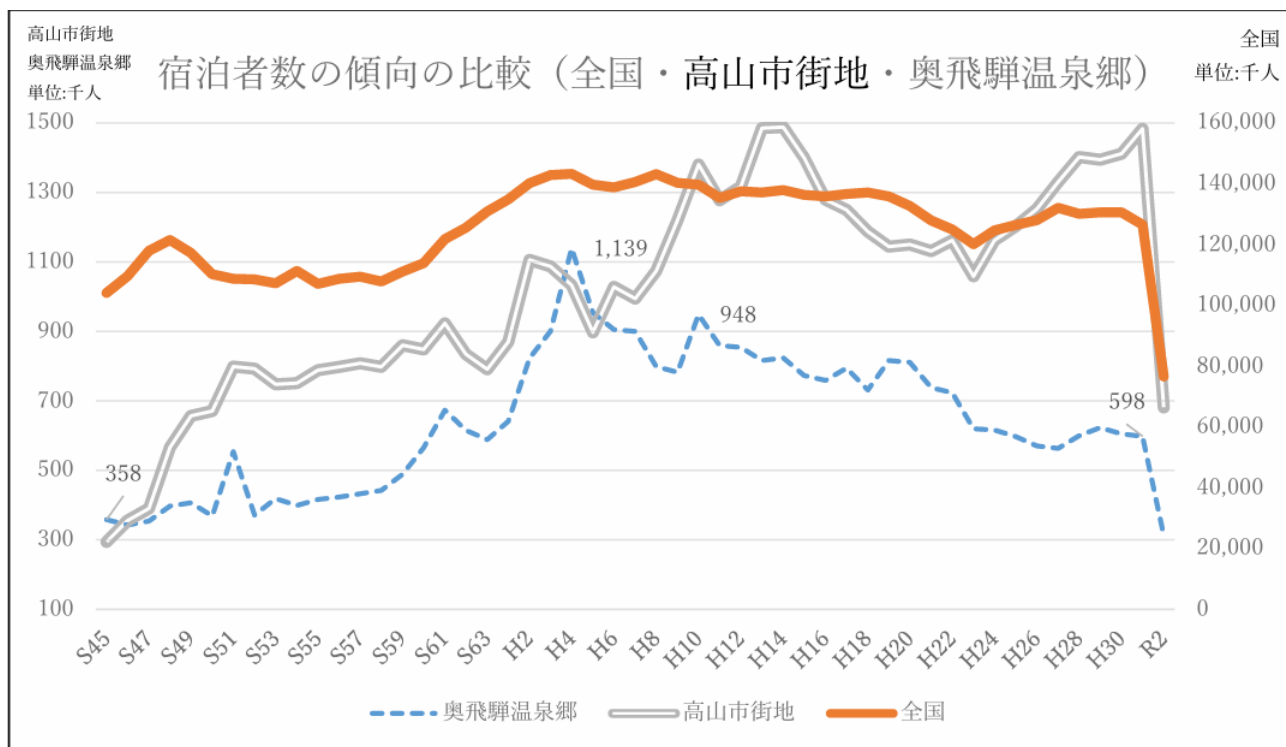
- ◎ 丹生川地域 農業、スキー場、山岳観光
- ◎ 清見地域 高山市街地から15分で支所（国道158号）
- ◎ 一之宮地域 高山市街地から15分で支所（国道41号）
- ◎ 久々野地域 農業、高山市街地から20分で支所（国道41号）
- ◎ 国府地域 高山市街地から20分で支所、飛騨市へ接続（国道41号）
- 奥飛騨温泉郷・上宝地区【旧上宝村】
高山市から上宝支所（標高627m）、平湯（標高1250m）ともに50分

出典）高山市第9次総合計画

出典：2020年以前（実績値）総務省「国勢調査」（年齢不詳分除く）
2025年以降（推計値）国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年12月推計）」

奥飛騨温泉郷の宿泊数から見た観光概況

- 奥飛騨温泉郷における宿泊者数は、平成4（1992）年の約114万人をピークに減少傾向
- 安房トンネルが開通した翌年の平成10（1998）年には約95万人と一時的に増加
- その後も減少傾向が続き、平成31年・令和元（2019）年には約60万人まで減少



出典：高山市「観光統計」、環境省「温泉利用状況経年変化表」

特に、若者に知られていない

- 「奥飛騨温泉郷を知らないし行ったこともない」人の割合は全体で約20%
- 20代は約32%と高く、若年層ほどその割合が高い。
- 60代以上は約10%と、若年層と比べて低い。

「平成29(2017)年度GAP調査」株式会社リクルートじゃらんリサーチセンター（1040名を対象としたインターネット調査）

訪問者の期待度、満足度はともに

- 「観光施設・資源」,「露天風呂」,「食べ物・料理」,「接客」,「奥飛騨温泉郷全体」の各項目に対し期待をしている人は調査対象者の5割。満足は5割以上。
- 「移動公共交通手段」,「宿泊施設」,「昼食場所」,「土産品」の各項目に対して期待をしている人は調査対象者の2割未満、満足も2割未満と低い状況

「平成30（2018）年度 奥飛騨温泉郷の活性化に関する奥飛騨温泉郷来訪者アンケート調査（奥飛騨温泉郷に訪れた1,687名を対象）」

全国における大学と地域の取り組み

大学と地域の取り組みが全国各地で始まっている【総務省】

- ① 地方での暮らしや地域活性化の取組に関わる機会を拡大させ、若者が地域との関わりをつくっていくこと
- ② 若者にとって魅力的で働きやすく、暮らしやすい地域づくりへの機運の醸成

大学等高等教育機関（大学、高等専門学校）と地域が連携したフィールドワークを伴う地域課題解決プロジェクトの有無について質問

→ 1187自治体のうち、431自治体が「実施」

「予算を計上する」自治体は252

総務省「大学等と地域が連携して取り組む地域課題解決プロジェクト」2024

課題➡当地への大学生の訪問は一時的。いかに継続的な関わりを創出するか

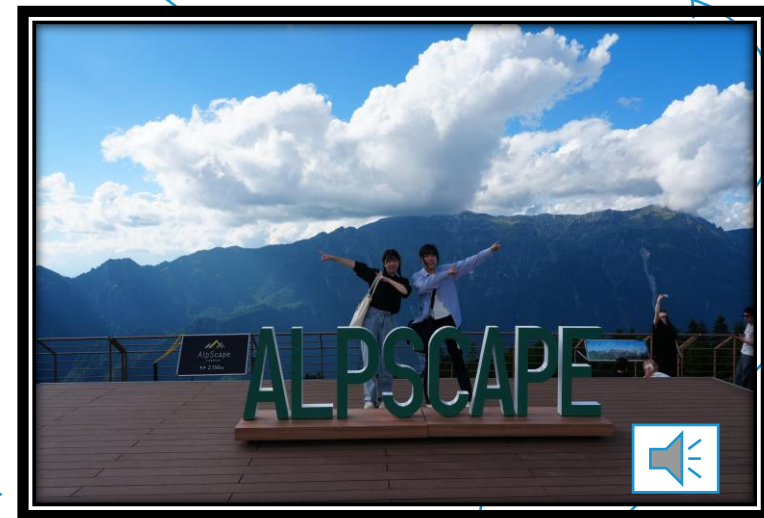
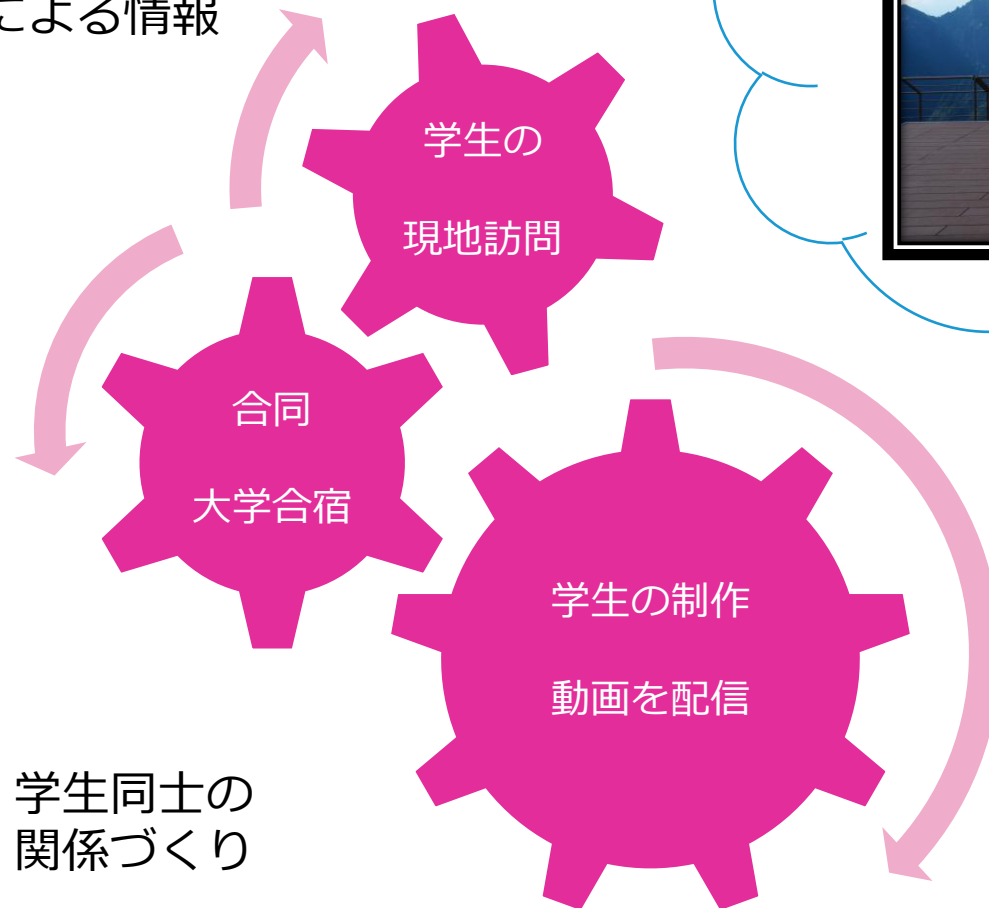
社会実装) 学生と地域をつなぐ試み アウトーブランディングの視点から



現地での実体験
五感による情報
獲得

一時滞在

学びの相乗効果



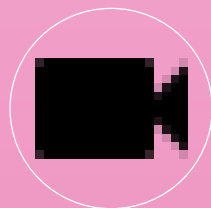
常時配信



若者目線によるショート動画 ⇔ 多くの若者



ターゲット
20代学生、
新社会人



若者が良く使う
SNSでの拡散
(ショート動画)



奥飛騨を知る
行きたくなる

時間と距離の壁を越えた「交流」を促進

- 岐阜県中部山岳国立公園
活性化推進の一環で
- 若者が良く使うTikTok
での配信を前提に作成
- 動画サイズ、時間を検討
- 「説明型」「解説型」
「感情型」「感性型」な
ど切り口は様々に

9/1～3 2泊3日の3大学合同合宿

文教大学 4 名、愛知大学 3 名、松本大学 3 名の総勢10名
教員 2 名の同行 + 大学連携センター 2名

1日目) ガイダンス、平湯を歩く



1日目

13:00	オリエンテーション 自己紹介 映像づくりの方針をディスカッション
15:00	現地調査 1 @平湯温泉街 を歩く
17:00	チェックイン 夕食 @ひらゆの森
19:00	現地調査 2 (夜間調査) ナイトハイク @平湯大滝駐車場



2日目) フィールド調査と ワークショップ

2日目

8:00	現地調査 3 @平湯大滝 @乗鞍岳 乗鞍スカイライン 大黒岳の登山
12:00	昼食・移動
13:50	現地調査 4 @新穂高ロープウェイ
17:00	ワークショップ 1 @ひらゆの森 感想のまとめ、動画の計画
18:00	夕食
19:00	ワークショップ 2 各自フィールド調査&作業

3日目) 動画の完成、地域発表会



3日目

	朝食、チェックアウト
9:00	ワークショップ3 動画制作（この時点でまずは1つ）
11:00	地域発表会 動画の発表と意図の説明
12:10	昼食
13:00	ふりかえり
14:00	現地解散

地域発表会には観光協会、行政、地元企業から11名が出席
後日、9月末までにレポートと動画3本を提出
10月末までに動画にキャプションをつけて、随時アップ

学生の感想から

＜地域訪問で感じたこと＞

- 印象的な訪問地は平湯温泉街、乗鞍岳、新穂高ロープウェイ
- 乗鞍岳と新穂高の印象の違い
- 奥飛騨は広い、地理の理解
- 3日間が濃かった
- 自然を五感で感じた
- 心躍る時間
- インタープリターから楽しく知った
- 実際のところ、現状を知った
- 自分で気づけなかった視点があった

＜学生交流の効果＞

- おしゃべりの中でヒント
- 雑談が楽しい、ご飯で席替え
- 他大学と一緒に過ごせた
- 気づいたら仲良くなっている
- 交流の楽しさ
- 次の人につなげる
- 同世代で意見交換
- 生まれと育ちによる感覚の違い
- 気を使わせないように努力（上級生）
- 大人がとても動いていることを理解

新聞掲載

第3種郵便物認可

岐

早

若者の目線で奥飛騨の魅力を再発見する「中部山岳国立公園活性化プログラム」が1～3日、高山市奥飛騨温泉郷平湯を拠点に行われ、県外の大学生10人が参加した。最終日の3日は同所の奥飛騨ビジターセンターで成果発表会があり、学生が地域の魅力を紹介するショート動画を発表した。(山田雄大)

奥飛驒の魅力 若者が動画に

温泉街、乗鞍岳、ロープウェイ撮影



県中部山岳国立公園活性化推進協議会の事業で、飛騨高山大学連携センターが、受託して初めて実施した。市と連携する愛知大（愛知県、文教大東京都など）、松本大（長野県）の学生計10人が、2泊3日の日程で

奥飛騨の魅力を詰め込んだショート動画を発表する学生＝高山市奥飛騨温泉郷平湯、奥飛騨ビジターセンター

活性化プログラム 県外の大学生、成果発表

平湯の温泉街、乗鞍岳、新穂高ロープウェイなどを訪問。現地で撮影した写真や動画を使いながら約1分間の動画を制作した。

成果発表会には、地元への観光協会、観光事業者など、関係者11人が参加。学生が一人ずつ動画を披露し、「温泉街の町並みの良さを昼と夜の2部構成で伝えた」「青空と緑が魅力的で、夏を感じられる動画に仕上げた」などどこだわったポイントを説明した。音に焦点を当てた動画を制作した松本大総合経営学部3年の荒井来実さん(21)は「川が流れる音、滝が落ちる音、温泉が湧き出る音はどれも自然の癒やしを感じられ、落ち着ける場所だということを感じて伝えたかった。初めての滞在は貴重な経験で楽しかった」と話した。

今後、学生は1人3本以上の動画を制作し、同協議会に納品する。動画投稿アプリ「TikTok」(ティックトック)で配信し、誘客へつなげる方針。

- 「温泉街の町並みの良さを昼と夜の2部構成で伝えた」
- 「青空と緑が魅力的で、夏を感じられる動画に仕上げた」
- 「川が流れる音、滝が落ちる音、温泉が湧き出る音はどれも自然の癒しを感じられ、落ち着ける場所だということを動画で伝えたかった。初めての滞在は貴重な経験で楽しかった」

との県外からの学生の声を拾う。

10/18 名古屋外国語大学 佐藤ゼミ訪問

学生12名 教員1名 (ガイダンスのみ大学連携センター2名)

福地温泉に2泊3日で12名が滞在。主目的は、温泉地でのインターンシップの事後調査として来訪。

- 奥飛騨ビジターセンターにて、センターより初日に50分のレクチャー「奥飛騨地域の概要と課題」「中部山岳国立公園南部地域の活動」動画制作の与件を提示
- 3大学と同様に、訪問学生に映像資料を制作・提出いただく

合同合宿、動画制作の成果

・発表会と地域交流

3大学の発表会は多くの出席者（平日午後に11名）があり、若者の視点を求め、関心の高さが感じられた。質疑応答が盛んであった。

・学生の反応

合宿では初対面でも大学を超えて同室になったメンバー同士の交流が進み、食事や入浴時に様々な会話が交わされて、日に日に仲良くなった。「コロナ後だからできた」、「平湯口ス」との声もあった。

学生は合宿や大学間交流の機会を求めており、「期間がもっと長くてもいい」との声もあった。発表は緊張していたが良い経験だった。

現地を実際に見ることや、ガイディングにより深く理解していた。

成果

・映像の可能性

「若者の間で流行している“自然界隈”の雰囲気」を、

「TikTokで観光地を探す」若者に対して、

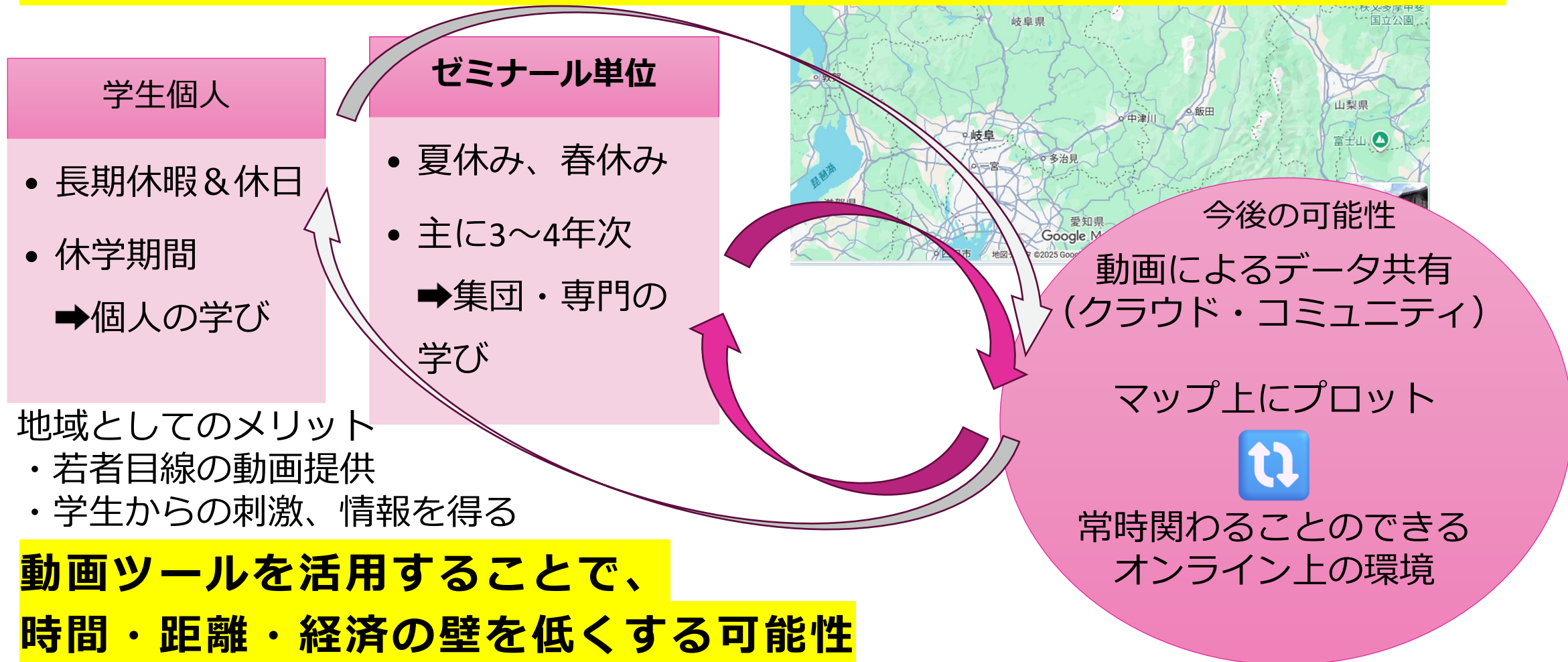
①使いやすいSNS媒体で、②使いやすい時間帯に配信、③適度なボリュームで伝えるなど、見る側の目線での発信に配慮がなされていた。動画は残るため、その後も活用ができることが利点。

・奥飛騨ビジターセンターが学習交流拠点に

同施設を拠点とすることで、知の蓄積や、ビジターとの接点も期待。

本事業の検証

課題 大学生の地域訪問は一時的。いかに継続的な関わりを創出するか



人口減少時代の地域と 学生の関わり

＜学生が訪問したい・できる地域づくり＞

- ・ **学ぶ場の提供** = 奥飛騨ビジターセンター
- ・ 合同合宿などの、**今、ここでしかない学び**
- ・ **大学教員と地域の連携**
(➡飛騨高山大学連携センターが接続)
- ・ **成果・情報発信の場の提供**
- ・ **オンライン上の情報コミュニケーション**
- ・ 大学を超えた**学生コミュニティの支援**

学生にとっての
重要な要素

地域の魅力・人の魅力
暮らし（働き方）
のイメージ

謝辞) 関係各位に深く御礼申し上げます